

平成22年度 第2回

大阪府・大阪市経済動向報告会

第1部：最近の大阪経済の動向 資料

『自律回復の地歩を固めつつある大阪経済』

平成22年7月27日

財団法人大阪市都市型産業振興センター

経済調査室長 徳田 裕平

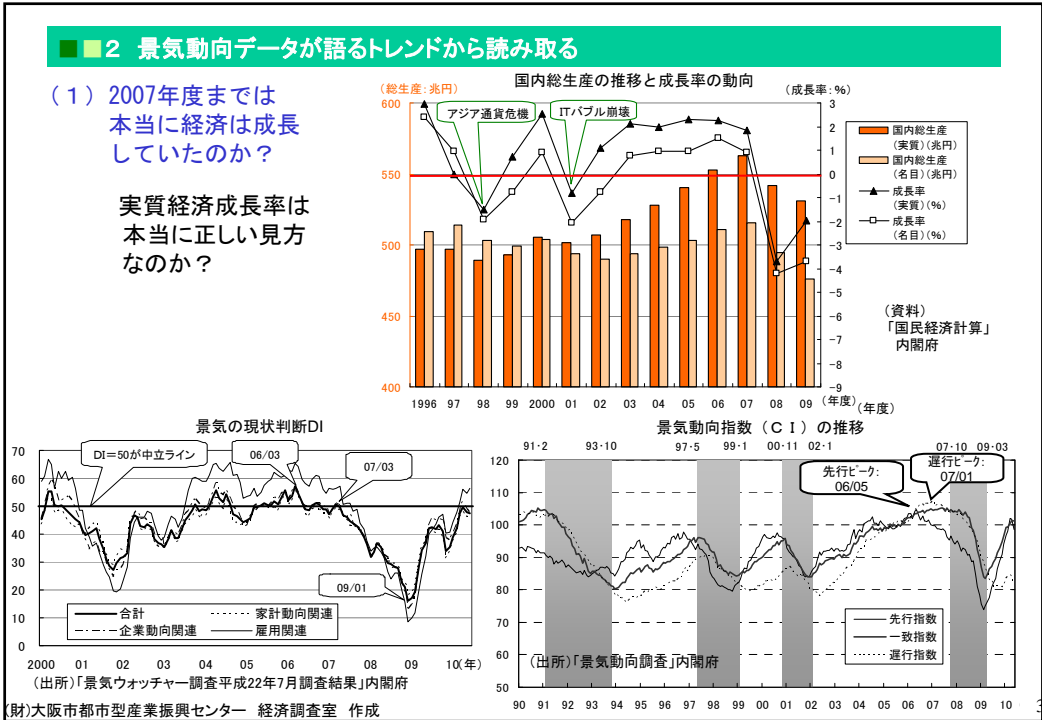


【本日の話題】

- ☆ この2年半の景気認識を振り返る
- ☆ 景気動向データが語るトレンドから読み取る
- ☆ 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する
- ☆ 不況脱却の足取りを検証する

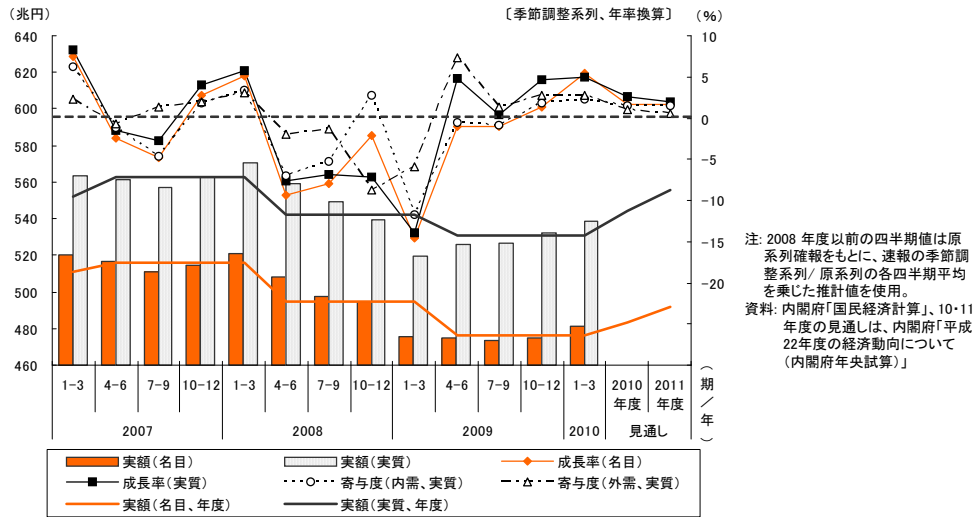
1 この2年半の景気動向を振り返る		各種機関での業況総括判断推移の比較			
年月	【国（内閣府）】	【近畿（日銀大阪支店）】	【大阪市（景気観測調査）】	【経済調査室のフェーズ】	年月
08年 1月	一部に弱さがみられるものの、回復している		経済環境急変に伴う新たな均衡へ向けた調整過程が進行	<フェーズI> 金融バブル崩壊の兆候現れるも大事に至らない潜伏期	08年 1月
2月	このところ回復が緩やかになっている	緩やかに拡大している	・興次元の世界へワープするトンネルに突入		2月
3月					3月
4月	景気回復は、このところ足踏み状態にある	一部に減速の動きがみられるが、基調としては緩やかに拡大している	コストプッシュにより一部の企業で価格転嫁が進展	<フェーズII> 金融バブル崩壊が露呈し、設備マネーが世界を闊歩した激震期	4月
5月					5月
6月	景気回復は足踏み状態にあるが、このところ一部に弱い動きがみられる		内外需の弱さと原油価格の反落で方向感が定まらない不安定状態		6月
7月					7月
8月	このところ、弱含んでいる	減速している			8月
9月					9月
10月	弱まっている	停滞している	需要の急激な縮退により大企業中心に業況等が急降下	<フェーズIII> 外需依存型の日本の実体経済が急縮し、製造業が激減した激震期	10月
11月	弱まっている。・・・下押し圧力が急速に高まっている	停滞している	エアポケット的に		11月
12月	悪化している	停滞色を強めている			12月
09年 1月	急速に悪化している	悪化している	景気悪化は業種・規模を問わず急拡大	・総崩れ	09年 1月
2月					2月
3月	急速な悪化が続いており、厳しい状況にある	大幅に悪化している	景気は底入れの兆候が見られるものの、依然厳しい水準		3月
4月					4月
5月	厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポが緩やかになっている	大幅に悪化しており、厳しい状況にある	景気は再び持ち直しの動きとなり、緩やかに改善へ		5月
6月	厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	厳しい状況にあるが、悪化のテンポは和らいできている	景気は持ち直しの動きに向けて足踏みとなり、判断を許さない状況	<フェーズIV> 緊急経済対策の効果が徐々に現れるも、景況が不透明な底入れ期	6月
7月	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある	景気は下げ止まりつつあるものの、なお厳しい水準		7月
8月	失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	なお厳しい状況にあるが、下げ止まっている			8月
9月					9月
10月		雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる	景気は再び持ち直しの動きとなり、緩やかに改善へ		10月
11月	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している	景気は持ち直しの動きを着実に継続	<フェーズV> 新興国の外需が牽引しつつ、ECO主導の自給回復ステージの確立期へ移行期	11月
12月					12月
10年 1月					10年 1月
2月					2月
3月	景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある	雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、持ち直している			3月
4月					4月
5月	景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している			5月
6月					6月
7月					7月

財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成



2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

(2) 国内総生産など経済指標の動向と見通し

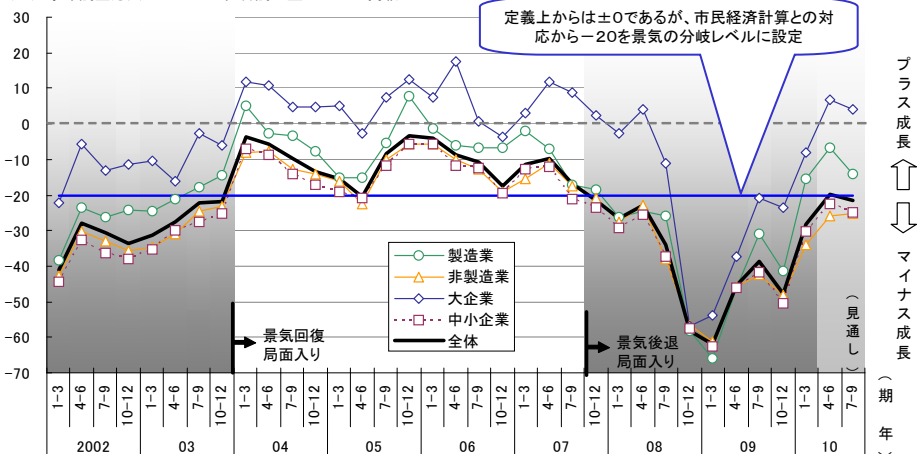


財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

(3) 季節調整後の対前期比景況判断

(注) 季節調整方法については経済調査室のHPに掲載



大阪市成長率(名目)	-1.5%	-0.1%	-0.8%	+0.2%	+0.7%	+0.3%
------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

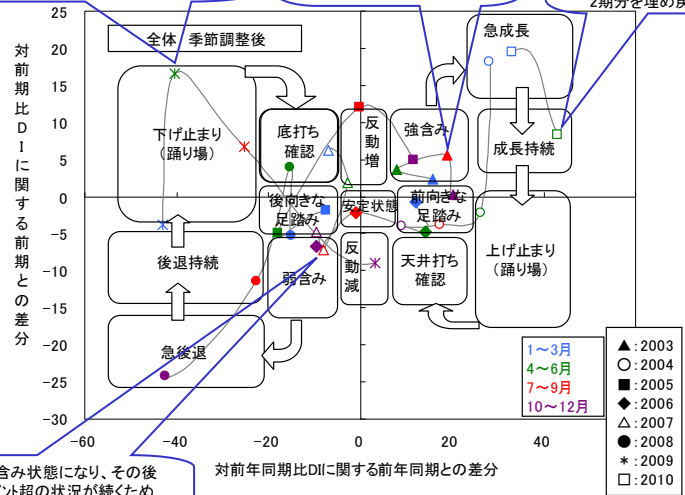
(資料)「大阪市景気観測調査」、
「大阪市民経済計算」

財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

(4) 前年同期比と前期比を組み合わせた「景気動向クロス判定による現状評価」

- ③ 2009になって3期続いて下げ止まり状態に位置しているが、前年比では-25ポイント超の状況が続いており、底打ち確認とは断定できず
- ① 2003は強含み状態が持続しているため、回復局面が近づいている
- ④ 2010になって2期続いて成長ゾーンに位置しており、金融危機後の急落時の2期分を埋め戻している



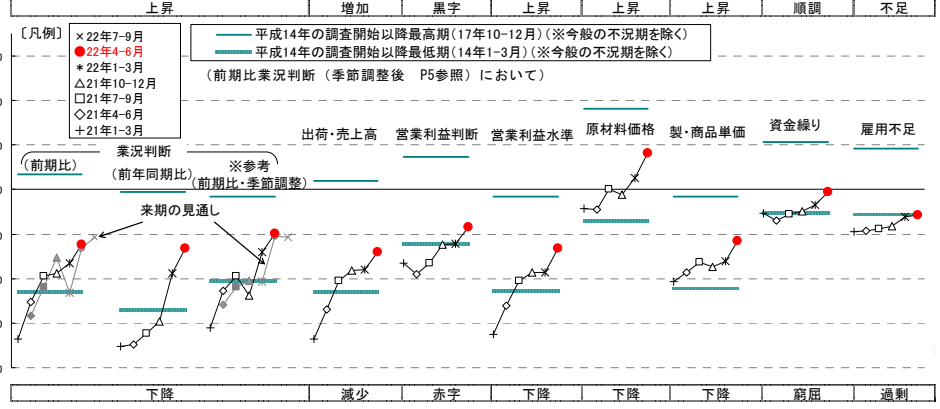
- ② 2007・Ⅲ期より弱含み状態になり、その後も前年比で-10ポイント超の状況が続くため後退局面入りと判断

(資料)「大阪市景気観測調査」をもとにデータ加工して制作

財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

(5) 大阪市企業アンケートからみる主要指標のDII変化と状況認識 (平成21年1-3月~22年4-6月)



フロー的 vs ストック的

業況や出荷・売上高は着実に回復軌道を歩み、金融危機以前の水準にまで戻る

原材料価格は再び増勢を強めつつあり、製・商品単価への価格転嫁を一部実施できる環境に改善

単価的に利幅確保ができつつあり、営業利益面では赤字脱却間近の様相も

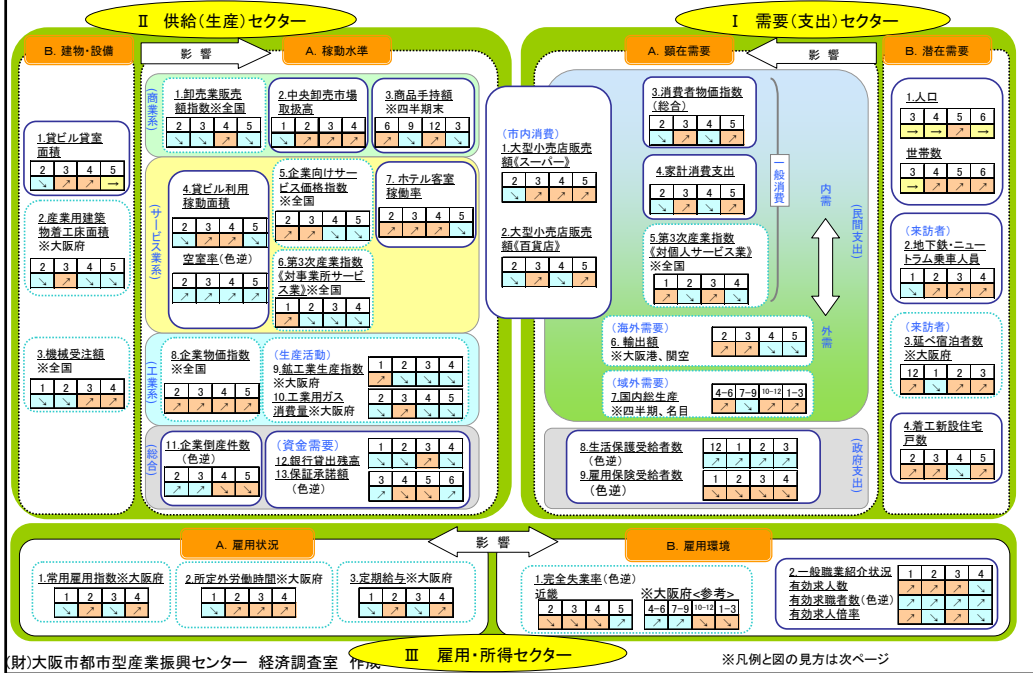
融資返済が順調に進みつつあり、資金繰りがかなり改善している

業況回復により雇用過剰感は5期連続して緩和し、人員調整終了に接近

(資料)「大阪市景気観測調査」をもとにコメントを追加

財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

3 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する (1) 毎月の指標で見る大阪市経済 (2010年6月より)



財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成 ※凡例と図の見方は次ページ

凡例

番号 指標名

月(1-3等の場合は四半期)

前月(期)比で上昇(↑)・横ばい(→)・下降(↓)を区分し、色にて意味を表現

■矢印の見方

↑ 前月(期)と比較して増加

→ 前月(期)と比較して横ばい ※0.05%未満の変化

↓ 前月(期)と比較して減少

■色の見方

赤 景況にプラスの方向

黄 景況に変化なし

青 景況にマイナスの方向

◎ただし、以下の7つの指標については矢印と色の対応が逆になっている。生活保護受給者数、雇用保険受給者数、貸ビル利用空室率、企業倒産件数、保証承諾額、完全失業率、有効求職者数

逆になっている指標は、「(色逆)」で示している。表記なしの場合 (↑) (色逆) (↓) (色逆)

■大阪市とそれ以外の指標

指標はなるべく大阪市の範囲に近いものを優先して掲載しているが、大阪市の指標がないものは、大阪府、近畿、全国などの広範囲の指標も代用している。

◇大阪市の指標(枠は実線) ◇大阪府より広域の指標(枠は破線)

例> 4. 家計消費支出 例> 5. 第3次産業指数(対個人サービス業) ※全国

図の見方

■直近4ヶ月の大阪市経済の変化を読む

図では、経済情勢を俯瞰するために、I 需要(支出)、II 供給(生産)、III 雇用・所得の3つのセクターに分けて整理した。

I 需要(支出)セクター

A. 顕在需要は、一般消費(小売・サービス等最終消費者向け)等や輸出等の需要を中心とした**民間支出**と、大阪市等による**政府支出**によって需要の動向を表す。

B. 潜在需要は顕在需要に影響を与える数字を表す。

II 供給(生産)セクター

A. 稼働水準は、卸を中心とした**商業系**、事業所を対象とするサービスを提供する**サービス業系**、製造業を中心とした生産活動を行う**工業系**、倒産件数や資金需要など産業活動を総合的に捉えた**総合**の4分類で、供給の動向を表す。

B. 建物・設備は、各産業活動の稼働水準に影響を与える建物・設備等の状況を表す。

III 雇用・所得セクター

A. 雇用状況は、雇業者サイドから、**B. 雇用環境**は被雇用者サイドから、雇用・所得の状況を表す。

財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成

■ 3 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する

(2) 大阪市経済の動向 (2010年6月)

- 3月：季節的に消費の動きは弱いですが、引き続き工業系が牽引し、景気は持ち直し基調を継続
- 4月：供給面で様々な動きを示す一方、需要面と雇用面で明るい兆候、景気は持ち直し基調を継続
- 5月：各セクターの一部で明るい兆しも見られるが、持ち直しへの動きは鈍い

6月：需要面では概ね明るいですが、持ち直しへの動きは季節的な影響もあって力不足

需要面では、輸出は引き続き減少したが、小売販売額と家計消費支出が増加し、消費者物価指数の下降も落ち着きを見せるなど、持ち直している。供給面では、5月は休日が多いなどの季節的影響もあって各指標とも持ち直しへの力強さに欠けるが、倒産件数の減少など一部に明るさもある。雇用面では、常用雇用、所定外労働時間、定期給与は全て増加となったが、求人環境は新年度入り後で需要に一服感が出ており、急増する求職者には厳しい状況が続くもよう。

【A. 稼働水準】

- ◇ **商業系** 全国の卸売販売額指数(5月)は下降、中央卸売市場取扱高(4月)は増加。
- ◇ **サービス業系** 貸ビル稼働面積(5月)は微減に転じ、空室率(5月)は僅かに上昇。全国の企業向けサービス価格指数(5月)は広告業に引っぱられ僅かに下降。ホテル客室稼働率(5月)は季節的な影響もあって、やや低下。
- ◇ **工業系** 全国の企業物価指数(5月)は引き続き鉄鋼等の原材料・素材系が上昇して僅かに上昇。大阪府の鉱工業生産指数(4月)は下降。工業用ガス消費量(5月)も例年の季節的な動きから減少となり、工業系の持ち直しへの動きは足踏み。
- ◇ **総合** 倒産件数(5月)は2ヶ月連続して減少し、2008年以降の最低水準へ。銀行貸出残高(4月)は需要期を過ぎて減少し、一気に2007年度以降で最低水準へ。

【B. 建物・設備】

貸室面積(5月)は高水準でほぼ横ばい。大阪府の産業用建築物着工床面積(5月)は減少し、低水準へ。全国の機械受注額(4月)は非製造業が牽引して増加。

II 供給(生産)セクター

I 需要(支出)セクター

【A. 顕在需要】

- ◇ **一般消費** 大型小売店販売額(5月)はスーパー、百貨店ともに増加。家計消費支出(5月)は微増。消費者物価(5月)は僅かに上昇し、このところ落ち着きを見せている。
- ◇ **輸出等の外需** 輸出額(5月)は大阪港で2ヶ月連続で減少、開空でも減少に転じたが、合計額の全国シェアは3ヶ月連続で上昇。
- ◇ **政府支出** 生活保護受給者数(3月)は上昇を継続。雇用保険受給者数(4月)は微減するも支給金額と初回受給者数は増加。

【B. 潜在需要】

世帯数(5月)は増加、人口は横ばい。着工新設住宅戸数(5月)は全国の動きと逆に増加。

- 【A. 雇用状況】 大阪府の常用雇用指数(4月)は新年度入りで大幅に上昇し、8ヶ月前の水準に回復。所定外労働時間(4月)も3ヶ月連続で増加し、定期給与(4月)も増加。
- 【B. 雇用環境】 近畿の完全失業率(5月)は僅かに上昇。市の一般職業紹介状況(4月)は、新年度入りで求人数が減少する一方で、求職者数が一気に近年最高水準まで増加し、求人倍率は下降。

III 雇用・所得セクター

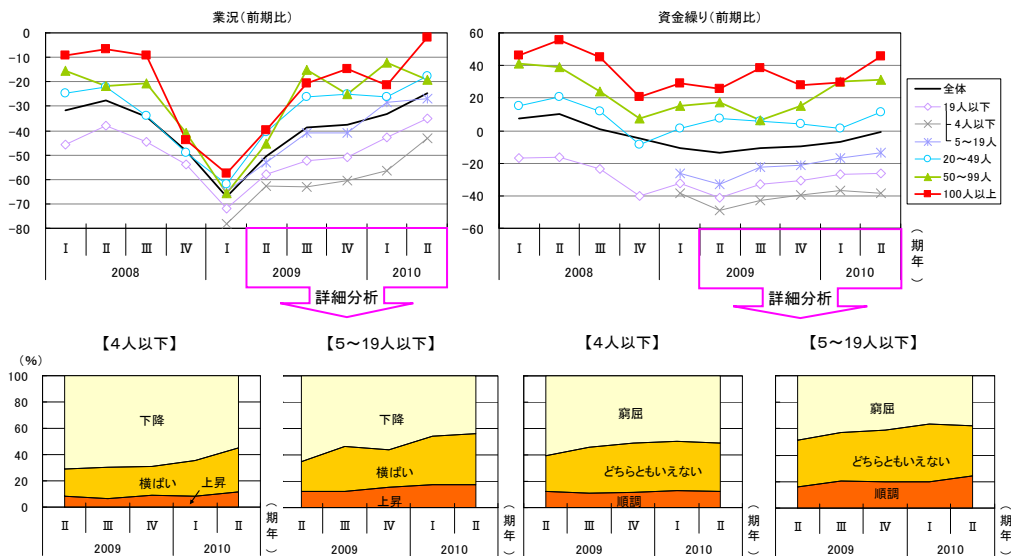
財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

10

■ 4 不況脱却の足取りを検証する

(1) 企業規模による回復格差の観点から

⇒ 4人以下の零細規模の企業にも業況回復に光明が差しつつあり、期待感！



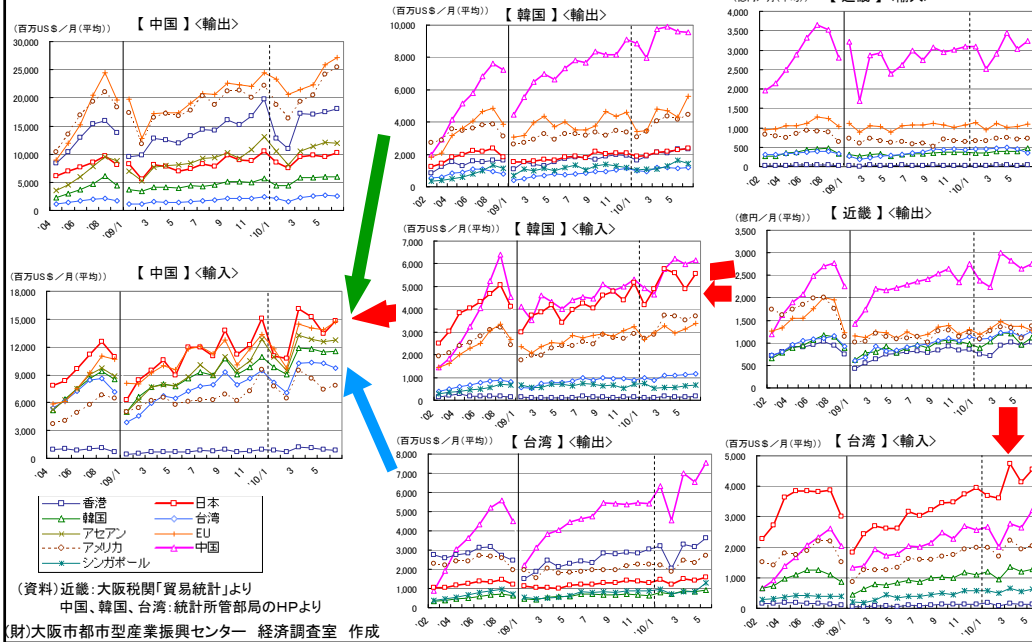
財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

(資料)「大阪市景気観測調査」のデータを加工して制作

11

■ 4 不況脱却の足取りを検証する

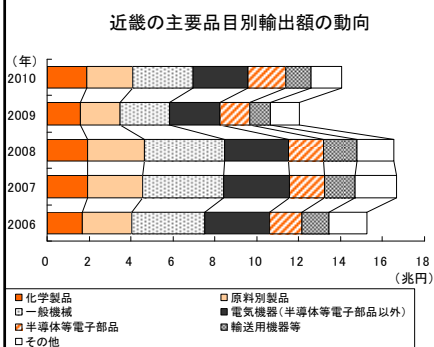
(2) 中国頼みの東アジア経済の連関構造の観点から



■ 4 不況脱却の足取りを検証する

(3) 近畿の品目別輸出動向
(1~5月累計)の観点から

⇒ 半導体等電子部品は2008年の月平均をすでに超えており、牽引役を期待！



財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

近畿の2010年の主要品目別輸出額の2008、09年増減率と全国に占めるシェア

